

冒険教育プログラムが大学生の思いやりに与える影響

ー自然の変化の感じ方に着目してー

谷 美里 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)

指導教員 黒澤 毅

キーワード: 冒険教育プログラム, 大学生, 思いやり, 自然の感じ方

1. 序論

現代の社会では, 青年期における大学生について思いやりを育む環境が少なく, 対人関係の希薄化が問題視されている. 一方で, それらの問題に対し冒険教育プログラムでは困難に立ち向かいそれを仲間と乗り越えるプロセスを通じ思いやりの向上が期待されている. また, 自然と密接に関わる冒険教育プログラムでは, 刻々と移り変わる自然の変化は参加者の心に影響を与え, その感じ方が思いやりに影響する 1 つの要因として関係しているのではないかと考える.

そこで, 本研究は冒険教育プログラム体験が大学生の思いやりに与える影響を明らかにするとともに自然の感じ方と思いやりの関係について検討することを目的とする.

2. 研究方法

【対象者】平成 24 年 9 月 24 日～30 日に B 大学で野外を専攻する学生を対象に実施された専門実習に参加した 3 回生 15 名 (以下, 実験群) と, 同大学の野外専攻以外の 3 回生 16 名 (以下, 統制群) を対象とした.

【調査方法】(A) 思いやり意識調査: 金子ら¹⁾ が作成した大学生の思いやり意識の因子構造からキャンプ効果として期待できる 6 因子 12 項目に筆者が独自に修正したものを用いた. (B) ふりかえりシート: 参加者の実習中の自然の感じ方と実習中の思いやり意識, またその背景を明らかにするために筆者が独自に作成したものを用いた. 実習のプログラム内容と調査時期を表 1 に示す.

表1 プログラム内容と調査時期

時期	プログラム	A	B
実習前日 (pre)		◎	-
1 日目 (camp1)	縦走登山	-	○
2 日目 (camp2)	縦走登山	-	○
3 日目 (camp3)	40km ハイック	-	○
4 日目 (camp4)	カヤック	-	○
5 日目 (camp5)	カヤック	-	○
6 日目 (camp6)	90km オーバー	-	-
7 日目 (camp6)	ナイトハイック	-	○
実習直後 (post1)		○	-
実習 1 か月後 (post2)		◎	-

実験群: ○ 実験群・統制群: ◎

3. 結果と考察

1) 思いやり意識について

実験群の思いやり意識得点は pre-post1 間で有意に向上し, 効果は post2 まで維持された (表 2). 因子別では, 他者尊重・交流因子, 積極的社会参加因子に pre-post1 間で有意差がみられた. これは, 非日常の中での集団生活が, 日頃あまり意識しない他者への思いやりにつながったためだと考える. また, 過酷なプログラムをやり遂げるための積極

的な態度が向上し, やればできるという気持ちが自分への自信につながり積極的参加意識の向上につながったと考える.

表2 日常の思いやり意識得点の平均と標準偏差

(Friedman 検定・Wilcoxon の符号付順位検定・Mann-Whitney の U 検定結果)

群	n					X ²	Z値	U検定	
		pre	post1	post2	pre			post2	
		M(SD)			Z値				
実験群	15	47.27 (4.99)	51.73 (4.74)	51.40 (4.32)	5.82 †	-	-0.91	-2.88 **	
統制群	16	45.43 (7.31)	-	45.56 (5.94)	-	n.s.			
							† p<.10, **p<.01		

実習中の思いやり意識得点は, camp1 から camp6 にかけて有意に向上した (表 3). 仲間とプログラムを達成し, 成功体験を繰り返す中で集団意識が高まり, 日を重ねるごとに仲間への思いやり意識も向上していったと考える.

表3 実習中の思いやり意識得点の平均と標準偏差 (Friedman 検定結果)

群	n	camp						X ²
		camp1	camp2	camp3	camp4	camp5	camp6	
実験群	15	29.00(4.31)	29.00(4.14)	29.93(4.82)	29.47(4.37)	30.20(4.43)	32.40(4.69)	12.93 *

*p<.05

2) 自然の感じ方について

冒険教育プログラム中に感じる自然は対象者によって異なり, 感じ方もさまざまであったが, 登山では「気温」, カヤックでは「波」, ハイックでは「風」などプログラム内容や活動場所に関係した記述が多くみられた. また, 心や体に余裕のある人は自然の感じ方もポジティブに捉えている傾向があった.

3) 自然の感じ方と思いやりの関係について

実習中の自然の感じ方と思いやりの関係について検討するために, 自然の感じ方得点を高得点群・低得点群に分け, 思いやり意識の得点差を比較した結果, 自然の感じ方高得点群に思いやり意識得点の高い傾向がみられた (表 4). 高得点群は自然に対してもポジティブに捉えており, 心や体に余裕があったため, 仲間を思いやることのできたと考える.

表4 群別 (高得点群・低得点群) にみた実習中の思いやり意識得点の平均と標準偏差

群	n	camp1		Z 値	n	camp2		Z 値	n	camp3		Z 値
		M(SD)	Z 値			M(SD)	Z 値			M(SD)	Z 値	
高得点群	7	30.29(3.82)	-0.94	9	32.00(2.61)	-2.02 *	7	30.86(3.98)	-0.52	29.13(5.59)	-0.52	
低得点群	8	27.88(4.64)		9	27.00(3.81)		8	29.13(5.59)				

群	n	camp4		Z 値	n	camp5		Z 値	n	camp6		Z 値
		M(SD)	Z 値			M(SD)	Z 値			M(SD)	Z 値	
高得点群	7	31.71(3.45)	-1.98 †	7	31.57(4.28)	-1.22	7	30.86(6.54)	-0.18	33.75(4.67)		
低得点群	8	27.50(4.31)		8	29.00(4.47)		8	33.75(4.67)				

† p<.10, *p<.05

4. まとめ

冒険教育プログラムに参加した大学生の思いやり意識は向上した. また, 自然の感じ方がポジティブな人はネガティブな人に比べ実習中の思いやり意識も高いという特徴があった.

引用・参考文献

- 金子 功榮・田村 博久 (1997): 思いやり意識の年齢差とその因子構造 教育工学研究 23, pp1-14
- 文部科学省 (2009): 「子どもの徳育の充実に向けた在り方について (報告)」
- 水津真奈 (2010): キャンプを体験した子どもの感謝の気持ちに関する研究 ～人とのつながりと自然とのつながりに着目して～, びわこ成蹊スポーツ卒業研究抄録集 p6